

Special Exhibition
特別展

Shigaraki: Shigaraki New Wave ひろがる Horizons of 創造のいま Corner 22 for art Creativity"

アートを生む場、
場をつくるアート

上田勇児 谷穹 山田洋次 榎本佳子 今野朋子 金理有 橋本知成 岩村遠 安永正臣 尾花智子 尾花友久 北川宏人 鈴木由衣 梅津庸一 安藤祐輝 田尾晃 天野靖史

A Place that Creates Art,
Art that Shapes Place

2026.9.12^{SAT} — 12.13^{SUN}

休館日：毎週月曜日

※9月21日、10月12日、11月23日(月・祝)は開館、9月24日、10月13日、11月24日は振替休館

開館時間：9時30分～17時(入館は16時30分まで)

入場料：一般1,100円(880円)、大学生880円(700円)、高校生以下無料

※()内は20人以上の団体料金

主催：滋賀県立陶芸の森

後援：滋賀県教育委員会、甲賀市、京都新聞、NHK大津放送局

協力：京セラ株式会社、大塚オーミ陶業株式会社、信楽窯業技術試験場、甲賀バラス株式会社

助成：公益財団法人 三菱UFJ信託地域文化財団



滋賀県立 陶芸の森 陶芸館

〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勸旨2188-7

TEL:0748-83-0909 / FAX:0748-83-1193 / Web:https://www.sccp.jp

シガラキ・ ニューウェーブ・ ひろがる 創造のいま

近年、信楽や伊賀には国内外から、陶芸にとどまらず、彫刻、絵画、インスタレーションなど多様な分野のアーティストが集い、新たな創造の潮流が生まれています。その背景には、やきものに適した土をはじめ、長年窯業地として培われてきた技術、人のつながり、そしてアーティスト・イン・レジデンス(AIR)など豊かな創作環境があります。

本展では、このような動きを「シガラキ・ニューウェーブ」と捉え、2010年以降にこの地域を拠点に国内外で活躍するアーティストたちを紹介します。とりわけ、産地の素材や風土、地域に息づく緩やかなつながりから生まれる多様な表現を通して、地域とアートが響き合うことで育まれる新たな創造環境の現在と未来を展望します。

展覧会構成

作品・関連資料など約120件

序章 ニューウェーブⅠ 信楽から派生する新たな創造

出品作家：上田勇児、谷穹、山田洋次

第1章 ニューウェーブⅡ 産地と協働する創造

出品作家：今野朋子、樹本佳子、金理有

第2章 ニューウェーブⅢ 世界にひろく創造

出品作家：安永正臣、岩村達、橋本知成、尾花友久、尾花智子

第3章 ニューウェーブⅣ ひろがる領域

出品作家：北川宏人、鈴木由衣

第4章 ニューウェーブⅤ 産地に根ざす新たな実践

出品作家：梅津庸一、安藤祐輝、田尾晃、天野靖史

関連行事

① 対話の森「産地の現在地とこれから(仮)」

登壇者：大杉栄嗣(大塚オーミ陶業㈱代表取締役社長)
加藤駿介(NOTA SHOP / NOTA&gallery代表)
松井利夫(滋賀県立陶芸の森館長)

日程：2026年11月22日(日) 14時～

場所：信楽産業展示館 信楽ホール 参加料：無料

② 信楽の窯元・工房見学およびアーティストトーク

③ 大塚オーミ陶業㈱のショールーム&信楽窯業技術試験場見学

④ 出品作家：梅津庸一による町内展示

2026年9月5日(土)～24日(火) / カフェ&ギャラリー陶園

⑤ 親子向けの関連ワークショップ

⑥ 担当学芸員によるギャラリートーク

※詳細は、当館HPをご覧ください。

同時開催

陶芸館ギャラリー「AIR-名品セレクション展Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

会期：2026年9月12日(土)～12月13日(日) 入場無料

※会期中展示替えあり

本展に関連する展覧会

「陶板体感！ やきものがつなぐ芸術と文化」展

主催：大塚オーミ陶業㈱

会期：2026年10月7日(水)～11月3日(火・祝)

場所：甲賀市信楽伝統産業会館(信楽焼ミュージアム)

次回展覧会

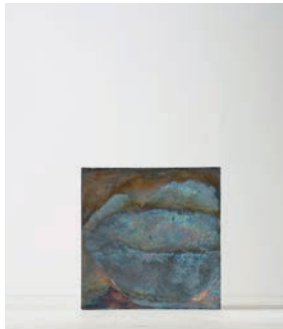
特別展「ティーカップ・メリーゴーラウンド ヨーロッパ陶磁にみるモダンデザイン100年 岐阜県現代陶芸美術館コレクション」
会期：2027年3月6日(土)～5月30日(日)

陶芸の森へのアクセス

- 公共交通機関
- 「JR草津駅」より草津線乗り換え「貴生川駅」下車、信楽高原鉄道乗り換え「信楽駅」下車、徒歩20分(約75分)
- 信楽高原鉄道「信楽駅」より甲賀市コミュニティバス「陶芸の森前」または「陶芸の森(陶芸館前)」下車(約5分)
- 自動車
- 新名神高速道路 信楽インターから約8分
- 駐車場(無料)：普通車約250台、大型バス約10台



樹本佳子《カモメ／壺》2021年、H51cm、作家蔵



橋本知成《Untitled》2023年、H59cm
作家蔵、Photo: Gentoku Katakura (参考作品)



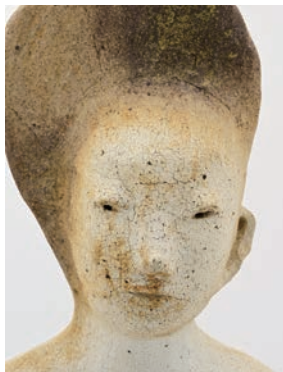
尾花智子《241227》2024年
陶・アクリルケース(H35cm)、作家蔵(参考作品)



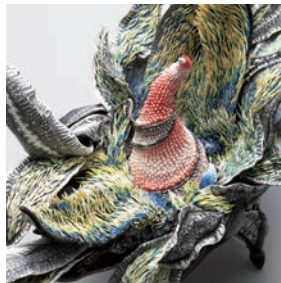
岩村達《Neo Jomon Red Mask》2024年
H116cm、個人蔵(参考作品)



安藤祐輝《untitled》2026年
H54cm、作家蔵、Photo: KENSE



天野靖史《safe area》2024年
H54cm、個人蔵(参考作品)



今野朋子《Liberation》2023年
H71cm、シカゴ美術館蔵(参考作品)



金理有《煌金彩虚視線入道》2023年
H190cm、個人蔵
Photo: Akihito Inui (Pillar) (参考作品)



尾花友久《煉瓦》2021年、H74cm、作家蔵



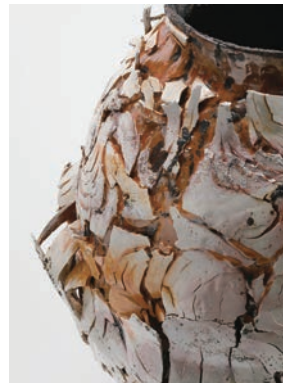
安永正臣《Mosaic Vessel》2025年
H142cm、個人蔵(参考作品)



鈴木由衣《Attempting the impossible 壺》
2026年、H46cm、個人蔵、写真：来田猛



梅津庸一《花粉連し器》(技術協力 | 奥田文悟、丸信製陶)2021年、H127.5cm、個人蔵



上田勇児《Untitled》2025年
H104cm、個人蔵(参考作品)



谷穹《信楽壺》2025年
H58cm、作家蔵(参考作品)



山田洋次《スリップ轆円鉢》2026年
W35cm、作家蔵



北川宏人《CU2602-blue/ブルー》2026年
H214cm、作家蔵



田尾晃《Halo》2025年
H162.5cm、作家蔵(参考作品)